

些細な追求

韓志旼

「人々は、日常の生活の中で馴染みのない存在に気付かなかった。」 - 『スクリータペ・レター』

「Trivial Pursuit」プロジェクトは、写真の主題から焦点を外し、背後の周辺のオブジェクトに注意を向け、意味のない日常の写真を再定義し、有意義なものに変えることを目指しています。

このプロジェクトは、約15年にわたる日常の写真のコレクションを整理しているうちに始まりました。最初はこれらの写真の主要な主題をどのようにカテゴリ分けし、いくつかを捨てるべきかを考えました。このプロセスの中で、写真は私の記憶から次第に消えていきました。しかし、後でそれらを再訪すると、主題ではなく些細な要素が私の注意を引き、私の記憶と衝突することで新しい意味を持つようになったことに気付きました。

作品を修正している最中、「Collection: Horizon and Horizontal」という作品では、初めは写真全体を支配していた女性サーファーの代わりに、ぼんやりとした水平線に私の視線が釘付けになりました。これにより、「マダム・ボヴァリー」の水平線の記述を思い出し、遠くから見ると未来の可能性を示唆していますが、近づくと幻想のように遠ざかり、写真の中で新しいメッセージを残す記憶に溶け込んでいるように感じました。

このアートワークの各画像には、「The Text: 더 텍스트」というテキスト画像が付属しており、選ばれた些細なオブジェクトに関する客観的な事実とストーリーが含まれています。このテキスト画像は、言語とイメージの架け橋として機能し、これらのオブジェクトの隠れたユニークさを明らかにし、鑑賞者にアートワーク内のこれらの一過性の脇役の重要性を発見する機会を提供します。

このプロジェクトの始まり以来、私は日常生活からの普通の写真を一貫して選び、それらの中の小さな詳細を組み立て、変換し、カテゴリ分けするプロセスを通じて普通の日常生活のコレクションを探求してきました。

コレクション行為は、時折、不安に関連する心理的メカニズムと絡み合って現れることがあります。人間の不安は、時折、逆説的なプロセスとして現れることがあります。しかし、私にとって、この不安こそが自由の追求における美的価値の源です。それを考慮に入れて、私は各写真のタイトルに「수집품」という言葉を使い、個々の人生のささいな断片が各画像の芸術性につながる概念を強調しています。

「Trivial Pursuit」は、普通と非常識の境界を探るものであり、「些細なもの」が個々の人に戻ってくる際にどのような意義が明らかになるかを探求しています。